

令和2年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

個々の生徒の状況に応じた支援を行う「寄り添う」教育、多角的なアプローチによる支援を行う「粘り強い」教育を実践することにより、生徒の自尊感情を高め、社会参加に必要な力を育み、目的を持って豊かな生活を送ることができる人材を育成する。

2 中期的目標

1 エンパワメントスクールの教育内容の充実

PDCA サイクルで組織的に取り組む。

ア 国社数理英の基礎科目及びエンパワメントタイムについて、担当者を中心に定期的に振り返りを実施し、必要に応じて修正を加えながら行う。

イ 他のエンパワメントスクールとの情報共有を行う。

※ 学校教育自己診断において、「モジュール授業に関する項目」の肯定的な意見を令和4年度には75%とする。(R1 72.7% H30 63.4% H29 72.6%)、「エンパワメントタイムに関する項目」の肯定的な意見を令和4年度には70%とする。(R1 64.0% H30 55.7% H29 56.4%)

ウ 4つの系列科目の内容の充実

※ 学校教育自己診断において、「系列に関する項目」の肯定的な意見を令和3年度には80%とする。(R1 70.1% H30 64.1% H29 57.8%)

2 3つの力(新たな自分を創造する力、人間関係を大切にできる力、社会に貢献する力)を育む。

(1) 学習活動の充実

ア 「わかる」「楽しい」を体験することで、自尊感情を高め、生徒が主体的に参加し、自ら学び、考える力を養成する。また、そのための環境整備を行う。

※ グループ学習、少人数展開授業、公開授業、新しい教育機器活用等を通して授業力を向上させ、令和2年度において、授業アンケート「授業展開」の平均値を4段階中3.20以上にする。<R2 3.20、R3 3.20、R4 3.20> (R1年度3.18 H30 3.19 H29 3.12) また、授業アンケート「生徒意識1」及び「生徒意識2」の平均値3.0以上を維持する。(R1年度 3.11 3.13 H30年度 3.08、3.10 H29年度 3.01、3.01)

イ 令和2年度入学生より新しくなった系列(マリンアドベンチャー、アクティブIT、ソーシャルケア、ワールドトラベラー)の構築を図るとともに、従来の4つの系列(海洋、情報、福祉保育スポーツ、英語国際)の内容も充実させる。

ウ 特色ある学校設定の授業を開講する。

(2) 特別活動の充実

体育祭、文化祭、地域と連携する山海人プロジェクト等の全員参加型行事、地域活動等の希望参加型行事を実施する。

※令和2年度においても全員参加型行事の山海人プロジェクト、体育祭の事後アンケートにおける肯定意見70%以上を維持する。また、文化祭事後アンケートを70%以上にする。<H31 65%、R2 70%、R3 70%>国際交流、地域活動等の希望者参加型行事の事後アンケート等ふりかえりにおける肯定意見80%以上を維持する。

(3) キャリア教育の充実

ア 個々の生徒の状況に応じた支援を行う「寄り添う」、多角的なアプローチによる支援を行う「粘り強い」生徒指導の実践

※学校教育自己診断における「高校にはいろいろななきまりがあって厳しいけれど、自分のためになっていると思う」の肯定的な意見を60%以上にする。(R1年度59.3% H30年度52.8% H29年度50.7%)

イ 人権教育の推進

※学校教育自己診断における「人権を大切にするための学習が十分に行われている」を50%にする。(R1年度62.5% H30年度52.5% H29年度47.2%)

ウ コミュニケーション能力の育成と人間関係構築への支援

※学校教育自己診断における「エンパワメントタイムは将来、社会人として生きていくための力がつく授業だと思う。」の肯定的意見について50%以上を維持し、令和4年度において60%以上にする。(R1年度64.0% H30年度55.7% H29年度56.4%)とする。

エ 望ましい職業観の育成と進路実現

※系統的なキャリア教育により、自尊感情を育成し卒業時における進路未決定者を10人以下にする。(R1年度卒業生のうち未決定者8人)

オ 国際感覚の育成

※海外研修の実施等、国際交流の推進を図る。

(4) インクルーシブ教育に向けた取組みの充実

ア 高校生活支援カードの活用促進のため、カードを活用した個別の教育支援計画の作成、ケース会議の開催等、障がいの有無にかかわらず困り感のある生徒の支援を行う。(高校生活支援カードの提出100%を維持)

イ 授業のユニバーサルデザイン化により基礎的環境整備を図る。

※令和2年度において、授業アンケート「授業展開」の平均値を4段階中3.20以上にする。<R1 3.18、R2 3.20、R3 3.20>

ウ LHRや総合的な学習の時間を活用して、互いに違いを認め合い、共に生きる集団づくりを図る活動を実施する。

※学校教育自己診断における「人権を大切にするための学習が十分に行われている」を50%にする。(R1年度62.5% H30年度52.5% H29年度47.2%)

エ 支援教育体制の整備

※多様な学び方に対応するための環境整備等の取組みにより、生徒の自尊感情を高めることで、中途退学や不登校を防止する。

(5) 通級指導教室の充実

ア 先駆的な取組みや環境整備により、入級生徒の自尊感情の育成を図る。

3 人材の育成と管理

ア 教員全体の資質向上のため、外部講師を招聘し授業改善、組織運営を中心に、支援教育、教育相談、人権問題、社会人教育など、必要に応じたテーマで講演会や研修を実施する。 ※ ミドルリーダーや外部講師による教員研修を年間10回実施する。

イ 働き方改革の一環として、会議等の効率化を図る。

4 地域連携と広報活動

ア 地域の小中学校への、点字等の本校の特色を活かした出前授業や、車いす体験ボランティアなどを継続する。

イ 地域の人たちから学ぶ場を継続的に確保する。※参加依頼のある地域行事に生徒会や部活動、有志が1団体以上参加する。

ウ 学校の取組みを発信する

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和2年度実施分]	学校運営協議会からの意見
○寄り添う生徒支援の更なる充実 今年度は、昨年度に引き続きすべての項目で、生徒の肯定的な回答が増加した。「学校に来るのが楽しい」では、全学年で向上している。1年生の80.7%が肯定的な回答が特に多い。多様な生徒が増加している中、生徒の特性に配慮したクラス展開や、授業、部活動、行事等の工夫が生徒に受け入れられたと考えられる。遅刻指導や頭髪指導に対する肯定的な評価とあ	第1回 5月27日(水) 新型コロナウイルス感染のため書面での開催 第2回 10月7日(水) ・クラブ加入率が13.4%から34.8%に増加しており、中退防止の対策として効果はある。 他の取組みは?⇒ 通級指導教室の設置、少人数のクラス編成などの取組みにより、一人ひと

<p>わせて、学校におけるきまりが自分のためになっていると考えている生徒の割合も、昨年度に引き続き全学年で増加している。多様な生徒の増加に伴い、より一層学校に対する満足度の向上に向けた授業改善やきめ細やかな支援を行っていく必要がある。</p> <p>保護者の評価は、選択肢に「よくわからない」を追加したことにより、「子どもは授業が楽しくわかりやすい」「岬高校のHPを見たことがある」以外は低下している。学校が楽しいと感じている生徒の増加に伴い、家庭で学校のことを話す生徒が増加していると思われる。</p> <p>○授業改善の取組みの深化</p> <p>教員の「授業をよりよく改善しようと、意欲的に取り組んでいる」項目の肯定的な回答が高い。本校では、ICT機器の活用も進んでおり、「わかる」授業づくりの工夫を行っていることや、生徒が主体的に参加する取組を行っている教員が増加したことも、生徒の肯定的な評価の増加につながったものと考えられる。</p> <p>○教職員の学校運営の参画</p> <p>教職員の意見が学校運営に反映されている項目の評価は昨年と比較して、高くなったが36.5%と低い状況である。一方でいじめに関する情報共有や迅速な対応等は92.3%が肯定的な回答であり、常にいじめの観点をもって生徒に接している状況であるといえる。今後は行事等で教職員のアイデアを募集する等の取組を行う必要がある。</p>	<p>とりの生徒をしっかりと見る教員が多くなり、支援教育の知識が学校全体として定着してきていることから、授業アンケートの肯定的回答が向上するなど成果はでている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・不登校の生徒への支援をさらに充実してほしい。 <p>第3回 1月27日(水)</p> <p>新型コロナウイルスのため書面での開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体験授業の参加者数が大幅に増加していることが評価できる。 ・地域と連携した学習活動をより一層充実してほしい。 ・学校に対する満足度が向上している。生徒の状況に応じた取組を一層すすめてほしい。
---	---

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 エンパワメントスクールの教育内容の充実	PDCA サイクルで組織的に取り組む ア 国社数理英の基礎科目及びエンパワメントタイムについて、担当者を中心に定期的に振り返りを行う イ 他のエンパワメントスクールとの情報共有を行う ウ 系列科目の内容の充実	ア 担当者を中心に、振り返りの会議を定期的に開催する また、次年度以降の選択科目等について、生徒の状況を踏まえた修正を行う イ 教育庁主催の会議等に担当者が出席し、情報収集するとともに、職員会議等においてフィードバックする ウ 定期考査ごとに、生徒の振り返りを行う	ア 学校教育自己診断において、「モジュール授業がよくわかる」「『エンパワメントタイム』に関する項目」の肯定的な意見の割合をそれぞれ70%、50%以上を維持するとともに、75%、70%に近づける (R1年度 72.7% 64.0% H30年度 63.9%、55.7%) イ 授業アンケートの全ての項目において、3.1以上とする ウ 学校教育自己診断において、「系列に関する項目」の肯定的な意見を70%とする (R1 70.1% H30 64.1%)	ア「国数英の授業は毎日30分あるので学力がつくと思う」84.5% (◎) 「エンパワメントタイムは将来、社会人として生きていくための力がつく授業だと思う」78.1% (◎) イ 3.24 から 3.37 の範囲 (◎) ウ 71.1% (○)
2 (1) 学習活動の充実	ア 「わかる」「楽しい」を体験することで、自尊感情を高め、生徒が主体的に参加し、自ら学び、考える力を養成する イ 4つのコース(海洋、情報、福山保育スポーツ、英語国際)の内容を生徒にとって、より魅力的なものにする ウ 特色ある学校設定の授業を開講	ア ①学習環境を整え学習目標を明示して授業を始める ②身近な教材を取り上げ生徒の興味関心を引く。 ③メリハリ・テンポ・リズムのある授業を心がける ④考える・説明を聞く・黒板を写すなどを明確に分ける ⑤具体的にはめるという5項目の内容を教員が目標とする 授業力向上のためのプロジェクトチームを結成し、校内全体の取組を進める 生徒が自主的に学習できる環境整備や取組を行う イ 各コースで従前と異なる取組を検討する ウ 地域資源や環境を活用した魅力的な授業を開講	ア 生徒向け授業アンケート「授業展開」の項目において、全生徒の評価の平均が4段階中3.18とする (R1年度 3.18 H30年度 3.17) また、授業アンケート「生徒意識1」「生徒意識2」の平均が3.0以上を維持する (R1年度 3.11 3.13 H30年度 3.08、3.09) イ 各コースで新しい取組を1つ以上行う ウ 新たに1つ以上の講座を開講	ア「授業展開」の項目において、平均が3.33 (◎) 生徒意識1 (◎) (①3.19 ②3.25) 生徒意識2 (◎) (①3.20、②3.25) イ 原動機実習、ドローン、カードゲーム、オンライン交流を実施 (○) ウ 「自己探求」で開講 (○)
2 (2) 特別活動の充実	体育祭、文化祭、山海人プロジェクト等の全員参加型行事、国際交流、地域活動等の希望参加型行事を実施	様々な行事の企画運営に、生徒会や希望生徒を参加させ、生徒が興味関心を持って取り組めるよう工夫する 山海人プロジェクトの内容について、雨天時のプログラム等を検討する 広報誌等活動に掲載してもらおうなど、地域等への発信について検討する	・全員参加型行事の山海人プロジェクト、体育祭の事後のアンケートにおける肯定意見70%以上を維持するとともに、文化祭では、60%とする ・希望者参加型行事の事後アンケート等振り返りにおける肯定意見を80%以上にする ・広報誌などへの掲載回数1回以上	体育祭は中止 学習発表会 60.7% (○) 国際交流 100% (○) (終了後の感想より評価) 新聞掲載1回、研究会会誌2回 TV報道1回 (○)
2 (3) キャリア教育の充実	ア 「寄り添う」「粘り強い」生徒指導の実践 イ 人権教育の推進 ウ コミュニケーション能力の育成と人間関係構築への支援 エ 望ましい職業観の育成と進路実現	ア 多様な生徒の状況に応じた生徒支援について学校運営協議会で聞く イ LHR や総合的な学習の時間に、人権課題について学び、考える機会を設け、人間関係を築く基本的なスキルを身に付けるためのグループワークを行ったりする ウ エンパワメントタイムの内容を他学年のLHR や総合的な学習の時間で実施する エ 1年次から進路実現を目標としたHR を計画し、講演や施設見学などを実施し、職業観の育成に努める	ア 生徒のマナーについての学校運営協議会の意見を校内外での生徒指導に反映させ、通学路等での指導を継続。自尊感情の観点を取り入れ、生徒向け学校教育自己診断における「高校にはいろいろなきまりがあって厳しいけれど、自分のためになっていると思う」の肯定的な意見を60%以上にする (R1年度 59.3% H30年度 52.8%) イ・ウ 生徒向け学校教育自己診断における「人権を大切にするための学習が行われている。」を50%以上にする (R1年度 62.5% H30年度 52.5%) エ 卒業時における進路未決定者を10人以下にする	ア「高校にはいろいろきまりがあって厳しいけれど、自分のためになっていると思う」66.6% (◎) イ・ウ 「人権を大切にするための学習が行われている」67.4% (○) エ未定者10名(2月末時点) (○)

府立岬高等学校

	オ 国際感覚の育成	オ 海外との交流を実施し、交流内容の充実を図る	オ これまで訪問したことがない国との交流を行う	オ オーストラリアの高校とのオンライン交流を実施(○)
2(4) インクルーシブ教育に向けた取り組みの充実	ア 高校生活支援カードの活用 イ 授業のユニバーサルデザイン化 ウ 共に生きる集団づくりを図る活動を実施する エ 支援教育体制の充実	ア 入学時に新入生全員に作成し、生徒の状況を年度当初に共有 配慮等が必要な生徒に対して、個別の教育支援計画を作成 イ 支援教育の観点により、2(1)の授業づくりに取り組む ウ LHRや総合的な学習の時間に、様々な人権課題について学び、考える機会を設けたり、人間関係を築く基本的なスキルを身に付けるためのグループワークを行ったりする(再掲) エ 多様な学び方に対応するための環境整備等の取り組みにより、生徒の自尊感情を高めることで、中途退学や不登校を防止する	ア 高校生活支援カードの提出100%を維持 必要な生徒に個別の教育支援計画を作成 イ・ウ 2(3)イ・ウと同じ エ 生徒が自分の得意な学び方が「わかる」機会として、地域連携を活用した活動等を年に5回以上開催する	ア 提出率100%(○) 個別の教育支援計画作成(○) エ 地域の団体と連携し、運動を通して、コミュニケーションや体幹を鍛える取り組みを10回開催した。(○)
2(5) 通級指導教室の充実	ア 先駆的な取り組みや環境整備により、入級生徒の自尊感情の育成を図る	ア 入級生徒に対して、自尊感情を評価するためのアンケートを実施 自立活動において、先駆的な取り組みを行う 通級指導室の環境整備を行う	ア 学期等の区切り毎にアンケートを実施し自尊感情の変化を把握する 地域連携による先駆的な取り組みを行う 特性に応じた環境整備を行う	ア すべての入学生に対し自尊感情アンケートを実施(○) 対人関係等に困難さを感じる生徒への支援(○)
3 人材の育成と管理	ア 教員研修の充実 イ 働き方改革の推進	ア ミドルリーダーや外部講師により、授業改善、組織運営を中心とする研修を行う イ 業務の効率化を図る	ア ミドルリーダーや外部講師等による教員研修を年間5回実施する イ 働き方改革の一環として、会議等の効率化と委員会等の統合を図る	ア 10回(○) イ メールでの資料配布、連絡事項の周知により会議のスリム化(○)
4 地域連携と広報活動	ア 地域の小学校への、点字等本校の特色を活かした出前授業や、車いす体験ボランティアなどを継続する イ 地域の人たちから学ぶ場を継続的に確保する ウ 学校の取り組みを発信していく	ア 取り組みを継続する イ 参加依頼のある岬町内のつつじ祭り、教育フェスタ等の地域行事に生徒会や部活動、有志が参加する ウ 特色ある取り組みの広報を行う	ア 取り組みを継続する イ 参加依頼のある地域行事に生徒会や部活動、有志が1団体以上参加する ウ 通級指導教室の成果の共有と発信を行う	ア 中止 イ 1団体以上参加(○) ウ 随時見学受入れと中学校訪問での説明、他の高校にて通級の説明を行った(○)